

宮城県感染症情報

～ 腸管出血性大腸菌感染症に注意しましょう ～

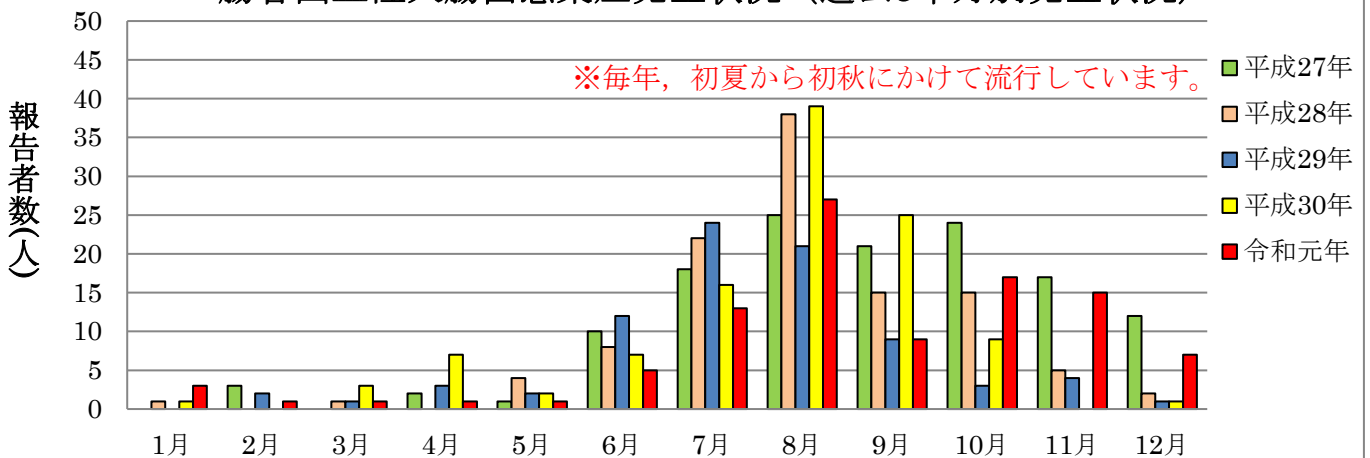
令和2年6月4日
宮城県疾病・感染症対策室

腸管出血性大腸菌感染症とは

腸管出血性大腸菌感染症とは、ベロ毒素を産生する病原性大腸菌による感染症で、感染してからおおよそ3～5日後に激しい腹痛と下痢（水様便・血便）を発症することが多いです。無症状や軽症で終わることもあります。重症化することがあり、時に死に至る場合もあります。特に子どもやお年寄りには重症化しやすいので注意が必要です。

汚染された食物を摂取することで感染するほか、便の中に排出された細菌を、手指や水などを介して摂取することで感染することがあります。感染力が非常に強く、少量の細菌を摂取するだけで感染します。

腸管出血性大腸菌感染症発生状況（過去5年月別発生状況）



予防のポイント

●手をよく洗う

トイレの後、食事の前、調理の前などに、石けんと流水で手をよく洗う。

●食品の加熱

食品は十分に洗い、中心までよく加熱する。（75℃以上で1分間以上）

●調理器具の消毒

調理器具（まな板・包丁・ふきんなど）は、その都度洗剤で洗い、熱湯等で十分消毒する。

●食品の保存

食品は冷蔵保存（10℃以下）する。時間が経ちすぎた食品は、思い切って捨てる。

●下痢などの症状がある場合

できるだけ浴槽に入らず、掛け湯かシャワーで済ませる。
バスタオルや手ふきタオルは共有せず、個別のものを準備する。



関連するホームページ

- 国立感染症研究所 <https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/439-ehc-intro.html>
- 腸管出血性大腸菌 Q&A <https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000177609.html>